平成 19 年度動物由来感染症の病原体保有状況調査結果

細 菌 科

愛媛県動物由来感染症予防体制整備事業実施要綱に基づく動物由来感染症疫学情報の収集を目的に，平成 18 年度に引き続いて愛媛県内の愛玩動物におけるサルモネラ属菌，カンピロバクター属菌，腸管出血性大腸菌の保菌状況調査を実施した．

平成 19 年 6～12 月の期間，動物愛護センターに収容されたイヌの直腸スワブ 70 検体，ネコの直腸スワブ 61 検体について検査を行った．その結果，昨年同様，サルモネラ属菌及び腸管出血性大腸菌は分離されず，動物における保菌は確認されなかった．一方，カンピロバクター属菌は，イヌ 70 頭中 9 頭（陽性率 12.9%）及びネコ 61 頭中 1 頭（1.6%）から分離され，イヌに関して比較的高い保菌状況が確認された．分離された 10 株のカンピロバクター属菌のうち，7 株が *Campylobacter jejuni* と同定され，Penner の耐熱性抗原血清型別は G 群 4 株，K 群 2 株及び O 群 1 株であった．

また，今年度は動物愛護センターにおける譲渡犬を対象に，譲渡前後 2 回の保菌状況を調査した．その結果，譲渡前のイヌ 71 頭は全て陰性であったが，譲渡 3 ヶ月後の検査が可能であった 49 頭中 1 頭から *C. jejuni* が分離された．保菌が確認されたイヌについて，1 週間おきに 4 回検査を実施したところ，2 回目の検査で再度 *C. jejuni* が検出されたが，3 回目及び 4 回目の検査では陰性となり，感染は長期化しないものと考えられた．

表1 動物愛護センター収容動物における病原細菌分離状況

種別	地域	検査数	病原菌陽性数（陽性率%）		
			サルモネラ属菌	カンピロバクター属菌	腸管出血性大腸菌
イヌ	東予	40	0	9 (22.5)	0
	中予	16	0	0	0
	南予	14	0	0	0
	計	70	0	10 (12.9)	0
ネコ	東予	18	0	1 (5.6)	0
	中予	9	0	0	0
	南予	34	0	0	0
	計	61	0	1 (1.6)	0

表2 動物愛護センター収容動物におけるカンピロバクター属菌検出状況

検体No.	年齢	性別	収容地域	収容年月日	採取年月日	検出病原体	血清型別
3	成犬	メス	東予	19. 6.14	19. 6.17	*Campylobacter* spp.	－
22	成犬	メス	東予	19. 7.31	19. 8. 7	*Campylobacter* spp.	－
24	成犬	オス	東予	19. 7.31	19. 8. 7	*Campylobacter* spp.	－
44	成犬	メス	東予	19.10. 2	19.10. 9	*Campylobacter jejuni*	O群
58	成犬	オス	東予	19.10.30	19.11. 6	*Campylobacter jejuni*	K群
61	成犬	メス	東予	19.11.29	19.12. 6	*Campylobacter jejuni*	G群
66	成犬	メス	東予	19.11.29	19.12. 6	*Campylobacter jejuni*	G群
67	成犬	メス	東予	19.11.29	19.12. 6	*Campylobacter jejuni*	G群
70	成犬	オス	東予	19.11.29	19.12. 6	*Campylobacter jejuni*	G群
124	成猫	メス	東予	19. 9. 4	19. 9.11	*Campylobacter jejuni*	K群